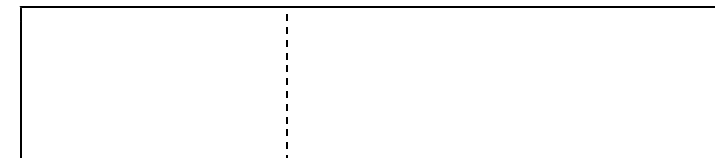


平成 27 年度
北島中学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ① 自分の考えや意見を表現する力を伸ばす指導の充実
- ② 学校と家庭との連携による学習習慣の確立



(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取り組み状況	達成状況
よさ	全般的に落ち着いた態度で、基礎的な問題や課題に意欲的に取り組むことができる。	基礎的基本的な事項について、繰り返し粘り強く取り組み、学習に対する興味・関心・意欲を身につける。	定期テストでの基礎的・基本的な事項の正答率 80%以上をめざす。	・「授業はじめに目標(めあて・ねらい)を示すこと」と「授業最後に、学習内容を振り返る活動を行うこと」を心がける。		
課題	新しい課題については興味関心をもち、意欲的に取り組むことができるが、繰り返し確認していく学習で、根気強さや意欲が不十分になっていく傾向がある。	具体的方策(教員の取り組み) ①朝学習のセミナー、自主学習などの提出物をチェックし、継続的に取り組むように指導する。 ②質問教室等の個別指導を実施し、苦手意識を克服させる。 ③基礎的・基本的な内容の小テストを実施し、合格点に達しなかったものには補充学習を実施する。	取り組み指標 ①自主学習の提出率 90%以上をめざす。 ②テスト期間や長期休業日等に、各学年 20 回程度実施する。 ③国・数・社・理・英の 5 教科すべてで実施を目標とする。		評価	次年度における改善事項

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取り組み状況	達成状況
よさ	方法がわかっていたり、指示された内容がはっきりしていたりすることに対しては、意欲的に取り組むことができる。	自分の考えを目的や条件に応じてわかりやすく相手に伝えることができる。課題解決のために資料や情報を効果的に活用することができる。	「自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができない」と答える生徒の割合を 10%以下、「できる」と答える生徒の割合を 40%以上にする。	・授業や定期テストにおいて、知識・技能を活用する課題に取り組む機会を設定する。		
課題	答えがわかっても意見を言うことや、自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。自主的に表現していけるよう工夫が必要である。	具体的方策(教員の取り組み) 授業の中で考えさせる場や自分の考えや意見を表現させる場をあらゆる機会を捉えて設け、言語活動の充実を図る。	取り組み指標 各学年、年間 10 回以上、このような活動の機会を設ける。		評価	次年度における改善事項

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取り組み状況	達成状況
よさ	与えられた課題については、ほとんどの生徒が真面目に根気強く取り組み、提出することができる。	①自らの計画のもと、家庭学習に意欲的に取り組むことができる。 ②礼儀正しい元気のよいあいさつができる。 ③清掃活動に意欲的に取り組むことができる。	①家庭学習を毎日 1 時間以上できた生徒の割合を 80%以上にする。 ②③あいさつや清掃活動がきちんとできたと答える生徒の割合を 80%以上にする。	・家庭学習の時間が少ない(1 時間未満)の生徒の割合が減少するように、適度な課題を与えるとともに、家庭と協力して計画的に自主学習に取り組む習慣を定着させる。		
課題	①家庭学習が十分に定着していない傾向がある。 ②日常的なあいさつができていない生徒がみられる。	具体的方策(教員の取り組み) ①家庭学習の手引きを参考に、家庭学習の充実を図る。 ②生徒が自ら作成した学習計画のもと、テスト勉強に取り組む習慣づける。 ③あいさつや清掃指導を重点的に行う。	取り組み指標 ①②については、三者面談時に生徒の取り組み状況についての話し合いを行う。 ③は日常的に指導を行う。 ①②③とも、きちんと指導できた割合を 90%以上にする。		評価	次年度における改善事項

